

新聞データベース導入、市民サービス拡充



裾野市立鈴木図書館

新聞記事検索システムの活用事例

vol.28



市民から親しまれる図書館

裾野市立鈴木図書館は、鈴木忠治郎翁の郷土を愛する熱い情熱と「ふるさとに図書館の設置を」との市民の思いを結集して、平成3年4月1日に市立鈴木図書館として新たなスタートを切っています。

「市民から親しまれる図書館づくり」を目標に、様々な蔵書の充実を図るのはもちろん、幼児から高齢者まで、新たな「本」との出会いのきっかけとなるよう毎月のおはなし会や映画会、



美術書で観る富士山



データベースを活用する井上館長

図書の展示会などを開催しています。最近では富士山の日に合わせて、富士山の写真集や美術作品を取り上げた「美術書で観る富士山」展なども開催しました。

また、昨年導入している『静岡新聞データベース plus 日経テレコン』は、「地域の情報」を調べるツールとして、図書館を身近に感じていただくためには欠かせないサービスとなっています。

今後はさらに、誰もが利用しやすい図書館として、データベース活用の幅を広げていこうと考えています。

裾野市立鈴木図書館 井上輝夫館長

レファレンスの大きな味方

図書館の大きな役割の一つに、市民の皆さんからの様々な疑問や質問、調べ学習、歴史的出来事やニュースに対応する情報提供（レファレンス事業）があります。

そんな時、効率的に情報を探すのに役立つのが『静岡新聞データベース plus 日経テレコン』です。「記事検索」や「企業検索」を活用し、膨大なデータの中から正確な記事や情報をすばやく得ることができるのは、大きなメリットです。私たち図書館員にとって「親しまれる図書館づくり」に、大きな味方ができたと思っています。

「新聞記事データベースの効率的な活用」は、今後進んでいく情報化社会の中で、レファレンスサービスのさらなる向上につながると信じています。

裾野市立鈴木図書館 勝又隆彦係長

鈴木図書館の由来



図書館の歴史は、昭和38年鈴木忠治郎翁が、勉学の志がありながら進学することのできない町民の子弟のために、育英資金として1億円という多額の浄財を寄付したことに始まります。

昭和40年に1億円を基金として育英事業を開始、さらに昭和42年に図書館の設立を希望する町民の要望に応え、土地・建物を取得し、町民・婦人会・出版社の寄付協力のもと、約6,000冊の図書を揃え、昭和43年7月15日に「財団法人 裾野町鈴木育英図書館」の名称で開館しました。そして平成2年12月10日に解散に伴う寄附の申し込みが裾野市にされ、翌3年4月1日から「裾野市立鈴木図書館」となりました。

私たちのまち Our home town



たかむら けんじ
高村 謙二 裾野市長

「健康文化都市」のまちづくり

裾野市は、「みんなの元気と調和でつくる暮らし満足都市」をまちの将来像として掲げています。さらに教育面については、成長する喜びと地域のつながりで心の豊かさを育む「すその」を施策の大綱としています。鈴木図書館は、市民の皆様にとって身近な生涯学習の場として教養を高め、情報を得ることができる施設といえます。

図書館で新聞記事や企業のデータベースが利用できるようになったことで、市民の皆様が身近な話題やニュース、さらに過去の出来事も調べられるようになりました。これからの情報化社会に適切に対応できるツールとして、ぜひこのデータベースを活用していただきたいと思います。

[当サービスのご利用について] 静岡新聞データベースplus日経テレコンは、インターネットを通じて提供する有料・会員制のサービスです。サービスご利用には、契約お申し込みが必要です。[利用料金] サービスご利用には、ご契約の当初料金、月額固定料金がかかります。

地元密着の静岡新聞、国内外の経済情報を網羅する日本経済新聞の情報を同時に検索

静岡新聞データベース plus 日経テレコン

■お問い合わせ 静岡新聞社 総合メディア局 TEL 054-284-9187(平日 9:00~18:00)

静岡新聞データベース 日経

検索

<http://www3.shizushin.com/dbplus/>



静岡新聞

